

【金沢区】令和2年第2回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和2年6月9日(火) 13時00分～14時25分
場 所	金沢区役所 5階1号会議室 (WEB会議形式で開催のため、座長以外の各議員はリモートで参加)
出席者	<p>【座 長】 小幡 正雄 議員</p> <p>【議 員：4名】 黒川 勝 議員、高橋 のりみ 議員、 竹野内 猛 議員、谷田部 孝一 議員、</p> <p>【金沢区：14名】 永井 京子 区長、栗原 敏也 副区長、 木村 博和 福祉保健センター長、 千田 満 福祉保健センター担当部長、 松寄 尚紀 金沢土木事務所長、</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	1 令和2年度 個性ある区づくり推進費区主要事業執行状況について
発言の 要 旨	<p>竹野内議員：新型コロナウイルスについて、PCR検査が受けられないことが問題になっていたが、現時点でのPCR検査の体制はどうなっているのか。</p> <p>秋野福祉保健課長：当初は検査機関が衛生研究所だけだったが、民間の検査機関も実施するようになり、検体を採取する帰国者・接触者外来の医療機関も増え、検査数が増加した。さらに、市医師会のPCR簡易検体採取により、かかりつけ医に受診のうえ、感染が疑われる場合に、事前に予約の上検査を受けていただく仕組みが開始している。学校に対しては、校長会等で、感染予防や感染者が出た時の対応について、福祉保健課から説明している。</p> <p>竹野内議員：経済状況の悪化により生活に困窮されている方からの相談に対して、区役所としてどのように対応しているか。</p> <p>井戸生活支援課長：相談者に寄り添い、適切な制度や施策をご案内できるよう努めている。特に、生活基盤である住居を失う、又は失う恐れ</p>

ある方からのご相談については、住居確保給付金の相談増加に対応するよう体制を強化している。

竹野内議員：収入が途絶えた方の生活を支援するには、住居だけでは済まない。相談者に寄り添った支援とは、具体的にどのようなに行っているのか

井戸生活支援課長：ご相談の内容も異なるので、案内や支援の内容も異なる。ライフラインの途絶等、生活がすでに立ち行かない水準まで困窮されている方については、住居確保給付金でなく、生活保護制度を案内している。離職の状況によっては雇用保険の申請助言や、求職支援も行う。その他、総合支援資金や、緊急小口資金等の貸付制度など、利用できる制度はないか確認し、状況にあった案内をしている。

竹野内議員：支援を受けるのに時間がかかり、なかなか支援が受けられないと聞く。金沢区においても、そのような実態や課題はないのか。

発言の
要旨

井戸生活支援課長：相談内容によっては、支援決定に時間がかかることもある。住宅確保給付金だと、収入要件の確認に必要な給与明細の会社からの郵送をお待ちになっている場合や、通帳を紛失した方であれば、再発行の手続きに時間を要す。様々な手続きが円滑に進むよう、「提出書類チェックシート」を用意し、希望者には申請書類一式を郵送する等、迅速に決定がなされるよう取り組んでいる。

竹野内議員：必要な方に情報が周知されることが重要だが、制度に関する周知はどのように工夫しているのか。

井戸生活支援課長：本市の新型コロナウイルス感染症関連ホームページに、「生活にお困りの方へ」という項目を作っている。5月1日からは、本市ホームページに住居確保給付金の申請書等を掲載し、郵送による申請も開始した。金沢区では地域での相談窓口がわかるよう、厚生労働省が作成した「生活を支えるための支援のご案内」に、区民の方向けの情報を加えて、民生委員の皆様にも提供し、必要な支援につながるよう周知している。

竹野内議員：新型コロナウイルス感染拡大防止の中で、民生委員児童委員は地域でどのように活動しているのか。

秋野福祉保健課長：訪問については3密を避けるため、原則として取りやめている。ひとり暮らしの高齢者や、気になる児童のいる家庭への電話などは、各地域で工夫して声かけ、安否確認等を実施している。外出自粛で話す機会がない方への電話は、大変感謝されている。民生委員、児童委員が、心配に思った案件については、区や地域ケアプラザに連絡いただき、必要な支援や制度につなげている。

竹野内議員：接触が制限される中で、認知機能が落ちてしまう方も多いと思うが、こうした方への支援について区としてどのように対応しているのか。

千田福祉保健センター担当部長：介護予防の取組でもある「元気づくりステーション」なども活動を休止しており、認知機能等が落ちてしまうのではと危惧している。金沢区オリジナルの体操普及リーフレットを作成し、郵便局やスーパー等27か所に配布したところ好評で、3,000部がすぐに無くなったため、1,200部を追加でお渡しし、10,000部を増刷している。

緊急事態宣言が解除されたので、感染予防対策に十分配慮し、これまで以上に介護予防事業に取り組んでいく。

竹野内議員：各訪問事業は、子育て家庭を孤立させないために重要だと思うが、休止により訪問できなかった家庭に対して、どのように対応したのか。

鎌田こども家庭支援課長：この間の訪問予定は264世帯だったが、子どもの発育状況、母親の健康・養育状況を電話確認し、訪問が必要と判断した27世帯については保健師、助産師が訪問して育児相談を実施した。

竹野内議員：育児不安を抱えている家庭に対して、虐待リスクを抑えるために、どのように取り組んでいるか。

発言の
要旨

鎌田こども家庭支援課長：区内の要保護児童 147 人に対し、学校等と協力し安全確認を行い、訪問が必要と判断した 40 人については、保健師、社会福祉職が訪問して育児相談等を実施した。

竹野内議員：乳幼児健診も休止になっているが、不安を訴えることのできない養育者への対応について、具体的にどのように取組んでいるのか。

鎌田こども家庭支援課長：個別検診の実施医療機関に対し、不適切養育が疑われる養育者の情報提供を依頼している。出生連絡票提出時や、児童手当の申請時等、養育者の来庁を捉え丁寧に聞き取りを行っている。困ったときの相談先や屋内での遊び方について、新たにチラシを作成し、区のホームページに掲載した。

竹野内議員：今後、様々な福祉的課題が表面化してくる。区民の生活を守るために、どのように取組んでいくのか。

千田福祉保健センター担当部長：今後、経験したことがない規模で、様々な課題が噴出してくる。区民の皆さまに、国や本市の支援策を案内し、相談や訪問の他、様々な事業を通じて、福祉保健センター一丸となって、地域、事業者とも協力して取組んでいく。

発言の
要旨

竹野内議員：区内の通学路や園児の移動経路を総点検し、13 か所の交差点などを行なうとしているが、その後の対応、進捗状況について伺いたい。

松寄土木事務所長：昨年度 2 か所実施。今年度は 9 か所実施予定で、10 月着工を目指し進めている。13 か所とは別に、釜利谷南公園下の水路への歩道設置については、6 月末にしゅん工の予定。

竹野内議員：三井アウトレットパーク横浜ベイサイドがオープンし、鳥浜地区に賑いが戻ってきたが、深刻な交通渋滞が発生している。区においても適切なサポートをお願いしたい。

八谷区政推進課長：アウトレットパークがオープンし、南部市場や八景島

等の臨海部の集客施設とも連携して、金沢区に人が集まることを期待している。一方で曜日や時間帯によっては、激しい渋滞が発生し、近隣工場の方は、なかなか車が出せない状況だということを現地確認もして把握している。本市も港湾局、経済局、区役所から事業者へ対応を依頼している。公共交通利用のより一層の促進などが考えられるが、3密を避けるため自家用車を利用している状況もあるようだ。隔地駐車場の設置、交通整理員によるスムーズな対応、警察の所管になるが、信号機や停止線の設置等、事業者と一緒に考え、連携していく。

黒川議員：新型コロナウイルスの金沢区の年代別感染者状況について伺いたい。

秋野福祉保健課長：金沢区は20代が多い。市全体では50代が多い。金沢区では、社会活動が活発な世代の感染者が多い。

黒川議員：区役所の感染症対応等は具体的にどうしているか。

木村福祉保健センター長：区民からの相談については、福祉保健課以外の職員も対応し、応援体制をとっている。また、患者発生時には疫学調査を実施し、神奈川モデルに基づき、患者の症状に合わせた、入院や宿泊施設での療養を、必要に応じて支援している。合わせて患者や濃厚接触者の健康観察も行なっている。感染症法に基づく入院勧告、就業制限等について、他の自治体と調整して行っている。

発言の
要旨

黒川議員：積極的な疫学調査とは、具体的にどのようなことを行っているのか。

木村福祉保健センター長：患者本人の症状、行動歴、家族構成、接触者等の聞き取り調査を行う。その上で患者の入院や、濃厚接触者の自宅療養、宿泊療養、健康観察についての説明を行い、同意をいただいている。

黒川議員：夜間や休日については、どのような体制をとっているのか。

木村福祉保健センター長：緊急連絡に対応できるよう、夜間は輪番で携帯

電話を持ち、休日についてはローテーションを組んで対応しており、当面の間はこの体制を継続する予定。

黒川議員：区内には7か所の大きな病院がある。新型コロナ対策をどのように連携し、進めているのか。

木村福祉保健センター長：区内の7病院との連絡会を実施している。各病院との顔の見える繋がりがあると、今回のような状況になった場合にも、連携しやすく迅速な対応ができる。今後も連絡会を通して、有意義な関係を作っていきたい。

黒川議員：診療所やクリニックの医師から相談があった場合は、どのように対応しているのか。検査が必要と医師が判断したのに、PCR検査に進めずに、症状が悪化したり感染が拡がるといったことのないようにしてほしい。

木村福祉保健センター長：症状を聞きとり、PCR検査が必要な案件は、医師会の方の検査を案内している。帰国者、接触者外来へも患者の受診の手配をする等の対応を行っている。

黒川議員：保育園の登園自粛で、どのように自粛していた方への支援を行ったのか。

発 言 の
要 旨

千田福祉保健センター担当部長：登園自粛となった保護者には、その日数分の利用料を返金している。また、家庭での養育が難しい場合は、保育所の方から電話などで状況を確認し、登園させるなど対応している。

黒川議員：時期的に保育所の入所には、影響がなかったのか。

千田福祉保健センター担当部長：新規入所者については、昨年度の5月から6月までの時期で比較すると、2割から3割程度減少している。

黒川議員：待機児童については、今回あまり問題になっていなかったが、ほぼ金沢区はなかったと思ってよいか。

千田福祉保健センター担当部長：今回の待機児童は0人。

黒川議員：保育所の感染防止対策はどこに重点を置き、やっているのか。

千田福祉保健センター担当部長：園児が着席する際は、間隔を空けており、アクリル板なども設置している。集団での活動は避け、少人数での行動を行っている。

黒川議員：金沢区は工業団地もあるが、区として行えるような経済対策は考えているか。

栗原副区長：LINKAI 横浜金沢や区商連をはじめ、地域の声を伺い、要望に沿って経済局が用意している支援メニューを紹介していく。

黒川議員：企業への支援として、融資制度があるが、金沢区は他区に比べ、申請が少ないようだが、周知徹底して欲しい。

八谷区政推進課長：中区、西区、神奈川区など中小企業者の多い区で申請が多い。経済局と連携し、様々な団体を通じて制度についてお知らせしていく。

黒川議員：商店街の給付金について、金沢区の申請状況や使用状況などがわかれば教えてほしい。全ての商店街が、申請して各個店に支援が行き渡るよう、周知徹底して欲しい。

発 言 の
要 旨

城石地域振興課長：区内では現在、一つの商店街から申請が出ている。明日の区商連の会議で、申請状況について確認する。

黒川議員：新たに永井区長が就任してすぐに、新型コロナウイルス対応に追われる日々だと思うが、令和2年度の区政運営についてお考えをお聞きしたい。

永井区長：新型コロナウイルス感染症の対応については、中長期的なもの

になると考えている。疫学的観点と経済的観点の両輪で区政を運営していかなければならないと思う。区民や職員の感染防止のため、職員のマスク着用の徹底や、窓口の亚克力板設置など、新しいスタイルを取り入れていく。地域の皆様の声を聞き、様々な支援に取り組めるよう、区役所一丸となって困難な状況に臨んでいきたいと。昨年度は台風被害もあり、災害と感染症の両面を考えながら、区政を運営して行かなければならないと考えている。先生方にも引き続きご協力いただきたい。

黒川議員：イベント等の中止で不用額が出ると思うが、どのような活用をしていくのか。3密を防ぐなど、新たな工夫をこらして、当初の目的を達成するなど、柔軟に対応して欲しい。

永井区長：不用額が発生する一方で、感染症対策や防災で新たに必要となっているものも出ている。必要な部分に予算を使っていきたい。

黒川議員：公会堂ではまだダンスやバレエでの使用はできないと聞いている。今後の使用方法はどのようにしていくのか。

城石地域振興課長：公会堂は6月1日から利用を再開しているが、ダンスなど体を激しく動かすものについては、市内一律でまだ運用を見合わせている。安全を第一に考慮した上で、運用について検討していく。

黒川議員：文化活動に関する支援金などを活用し、無観客で行い、映像で発表・発信するなど、感染症予防をした上で行える発表方法などを検討していただきたい。

発 言 の
要 旨

城石地域振興課長：各団体と話し合いながら、できることを行っていきたい。

黒川議員：自治会町内会長感謝会の行事があるが、以前は我々も参加していた自治会長町内会長と意見交換などを行う行事があった。こういった場は必要ではないか。

栗原副区長：以前はそのような行事があったと聞いているが、現在は行な

われていない。今後については地域の皆様とも相談し、検討する。

小幡議員：18区の中には議員が地区の会議に参加している区もある。地域の皆様の意見もあると思うので、検討していただけたらと思う。

高橋議員：区役所1階で特別定額給付金の相談窓口を見かけた。現在どのような相談が多いのか。

富士田総務課長：特別定額給付金の申請書の記載方法がわからないという方が1番多い。昨日までに600件を超える相談を受けており、そのうち約半数が申請書の記載方法に関するご相談である。ご相談には丁寧に対応している。

高橋議員：ごみ屋敷については、どのような支援を行なっているのか。

秋野福祉保健課長：定期的に状況確認するとともに、新たな案件についても、情報を共有し迅速に現地調査等をして、必要な対応を行っている。

高橋議員：今年は海水浴場の中止が多い。海の公園は、海水浴場がオープンしていなくても、遊びに来て海に入る人がいる可能性もあるため、ライフセーバーの配置は必要だと思う。区からも環境創造局へ要望してほしい。また、ライフセーバーの新型コロナウイルス感染防止のため、防護服など感染症対策に関するものの配付はできないものか。

松寄土木事務所長：海水浴は中止だが、海の公園は都市公園のため、水遊びなど安全・安心して利用できるよう、ライフセーバーの配置を環境創造局や公園の指定管理者である緑の協会へ要望していく。

発 言 の
要 旨

高橋議員：新型コロナウイルスのこの状況下における、国勢調査の調査員の仕事について教えてもらいたい。

富士田総務課長：調査員の業務は、調査票を配布し、それを回収していただく。調査員は、新型コロナウイルスの関係で、なかなか必要な人数が確保できていないが、公募等を行い、調査をしっかりと進めていきたい。

高橋議員：金沢八景駅近くに、警察官立ち寄り所があるが、そのような場所について区は把握しているか。

八谷区政推進課長：警察官立ち寄り所として設置したと把握している。

高橋議員：1年以上空き家になっている。区内には警察官のOBが160名ほどいるそうで、ボランティアとして配置したいようだ。区も積極的に支援してほしい。

城石地域振興課長：今後、地域と話し合いながら進めていきたい。

高橋議員：区役所前の歩道橋は老朽化しており危ない。区民からも苦情がきている。国土交通省へ区からも撤去について要望してほしい。

松寄土木事務所長：今年の3月に区長名で六浦交差点歩道橋等の補修も含め、横浜国道事務所長あてに区役所前歩道橋の撤去の要望書を出しているが、予算的に厳しい状況と聞いている。引き続き要望していく。

谷田部議員：ハザードマップや防災マップに、感染症の観点も盛り込まないといけないかと思うが、どのように考えているのか。

栗原副区長：ハザードマップ等にも、感染症の観点を盛り込んでいく必要はあると認識している。避難所に世帯ごとに仕切るテントなどを購入し、防災と感染症に備えた対策を整えていきたい。

発 言 の
要 旨

小幡議員：地区で行う防災訓練で、感染症対策も含めた対応をいただきたい。また、昨年の台風被害や教訓をまとめて、金沢区の事例としてまとめて示してほしい。